

2025 年 8 月 4 日

## 【SUPER GT 第 4 戦 /富士スピードウェイ レポート】

**SUPER GT 史上初、公式戦で 3 つのスプリントレースを開催。  
ヨコハマユーザーがオーバーテイクショーで見ごたえあるバトルを展開**

SUPER GT 第 4 戦富士大会が 8 月 2 日(土)、3 日(日)に開催された。SUPER GT 公式戦初めてのスプリントレースとなった今大会でのヨコハマタイヤ勢の戦いについて振り返る。

### 【レース 1】(両クラス混走、35 周)

まずは、8 月 2 日のレース 1。GT500 クラスの WedsSport ADVAN GR Supra は阪口晴南選手が、リアライズコーポレーション ADVAN Z は松田次生選手が出走する。予選では阪口選手が、前戦マレーシア大会を思い出させるような圧巻のスピードを披露。僅差ながら「富士マイスター」と呼ばれているライバルを下しての一番時計で、2 戦連続でポールポジションを獲得した。松田選手は阪口選手に対し 0.5 秒差の 6 番手。



決勝レースのスタート進行が始まるころには気温は 36 度、路面温度は 57 度を記録した。まさに灼熱の戦いとなったレース 1 は、スタートして早々に GT500 クラス車両の 1 台が接触アクシデントからコースサイドでストップ。これによりセーフティカー(SC)が導入され、レースは 5 周を終えたところでリスタートが切られた。この SC 明けに、阪口選手の WedsSport ADVAN GR Supra は後続に迫られ 2 ポジションを下げてしまうが、それでも離されずに食らいついていく。天候は決勝スタート時から徐々に悪化し、折り返し地点の 18 周目を迎えるころには雨もぱらつくように。ウェットタイヤに換えるほどではないものの、路面コンディションはタイヤに不利な方向に大きく変わってしまい、阪口選手は最終的に 5 番手でチェッカーを受け、上位の 1 台がタイム加算のペナルティを受けたことで正式結果は 1 つポジションアップの 4 位となった。松田選手のリアライズコーポレーション ADVAN Z は 12 位完走だった。



GT300 クラス予選では、この富士で行われた第 2 戦で速さを見せた CARGUY FERRARI 296 GT3 の小林利徳選手が 3 番グリッドを獲得。グッドスマイル初音ミク AMG の片岡龍也選手が 5 番手に、UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI のロベルト・メリ・ムンタン選手が 6 位につけるなど、トップ 6 に 3 台のヨコハマユーザーが入った。

決勝レースでは片岡選手のグッドスマイル初音ミク AMG が力強い走りでポジションを上げ、一時トップを 0.5 秒差まで追い詰めるシーンも。終盤には 3 番手のマシンも接近し三つ巴の激しいトップ争いとなり、片岡選手はトップを追いかけつつ後ろからのプレッシャーを押さえるという難しい戦いを強いられたが、順位を守り切り 2 位表彰台を獲得した。

#### ■ 阪口晴南選手(WedsSport ADVAN GR Supra)

【今回の成績：GT500 クラス 4 位】

チームとヨコハマタイヤさんがいいパッケージを用意してくれて、予選はとても気持ちよく走ることができました。ただ、決勝は厳しい戦いになると想定していて、実際に序盤には先行されたり、自分たちのバランスもあまりいいとは言えない中の走りで、レースペースには課題が残ったと感じています。ただ、路面温度が高いときや、雨がぱらついた状態、いろんなシチュエーションの中で新規コンパウンドを使いながらこういうレースを戦えたことはかなりの進歩だと思っています。4 位でポイントも獲得できて良かったです。

#### ■ 片岡龍也選手(グッドスマイル初音ミク AMG)

【今回の成績：GT300 クラス 2 位】

GT500 クラスとの絡みや、思ったようなブレーキングができない状況が 2 回ほどあったりして、終盤はトップと近づいては離れてという形になりました。ペースは良かったのですが、なかなか抜くまでには至りませんでしたね。優勝したクルマと比べてもパフォーマンスはあったと思うので、これ以上を望めない 2 位ではなく 1 位を逃した 2 位なので、悔しいですね。

### 【レース 2】（各クラス別走行：50 分間）

前日に続き、8 月 3 日(日)も朝から強い日差しが照り付け公式予選時には 30 度を超える暑さとなった。

予選は GT300 からスタートし、グッドスマイル初音ミク AMG が谷口信輝選手の走りで 2 番グリッドを獲得。

CARGUY FERRARI 296 GT3 のザック・オサリバン選手が 4 位、マツハ車検 エアバスター MC86 マツハ号の木村偉織選手が 6 位となった。



決勝レースは、グッドスマイル初音ミク AMG がペースに苦しみじわじわとポジションを下げていく一方、マツハ車検 エアバスター MC86 マツハ号の木村伊織選手が躍動。序盤に落としたポジションもすぐに回復すると、50 分レースの終盤には、コカ・コーラコーナーで 4 番手に浮上した。予選位置から 2 ポジション上げた形でチェッカーフラッグ。木村選手の追い上げはサーキットでもテレビ中継でも大いに注目され、トップ 3 表彰台は逃したものの、ファンの投票で決定する特別賞に選ばれ、壇上で表彰が行われた。



GT500 クラスは、WedsSport ADVAN GR Supra は国本雄資選手が 4 位から、リアライズコーポレーション ADVAN Z は名取鉄平選手が 8 位から決勝をスタートした。名取選手は、レース 1 の松田選手からのフィードバックもありペース良く周回。4 周目に相手のミスを逃さずスーパーカーでパスすると、今度は国本選手との WedsSport ADVAN GR Supra とのバトルに。激しい戦いは 4 周にもわたったが、最終コーナーでインサイドから並びかけて逆転。これでポジションアップに成功した。その後も 1 台、また 1 台とかわしていき 6 番手まで浮上。終盤には後方のマシンに迫られるような場面もあったが、そこもきっちりとおさえ切り 6 番手でチェッカー。レース後、5 秒のタイム加算ペナルティを受け正式結果は 10 位となった。国本選手は序盤の接近戦で接触されるアクシデントがありながら常に複数台とのバトルを展開したが、徐々にペースダウン。その後タイヤ交換のためピットインしコースへ復帰するも大きなタイムロスとなり、最終的に 15 位でフィニッシュした。

#### ■名取鉄平選手(リアライズコーポレーション ADVAN Z)

【今回の成績：GT500 クラス 10 位】

ウォームアップの面では少し厳しいところがあったて最初にポジションを落としましたが、その後のペースはとても良かったです。レース中のベストタイムも全体の 4 番手で、いいパフォーマンスを出せたと思います。今回は全車ノーウェイトの戦いだったので、その中でこういうレースを戦えたことは大きな意味を持っていると思います。次戦以降にもチャンスがあるのかなと思えるようなレースができて良かったです。

#### ■木村偉織選手(マツハ車検 エアバスター MC86 マツハ号)

【今回の成績：GT300 クラス 4 位】

レース 1 を戦った塩津佑介選手が、とてもいいバトンを渡してくれて、今日は走り始めから非常にクルマの状態が良かったです。そこから少しブラッシュアップして、自分の走りを合わせていくという、いい流れが練習走行の時点からできていました。予選は自分が失敗してしまって 6 位だったので、とにかく決勝では巻き返したいと思っていて、スタートでは元気が良すぎて飛び出してしまったりもしましたが、最後までタイヤのグリップが落ちず、高いパフォーマンスで走り続けられたことでいいレースができました。今回のレースを通してチームの士気も上がったので、次戦も頑張ります。

■中崎敬介 [横浜ゴム タイヤ製品開発本部 MST 開発部 技術開発 1 グループ・リーダー]

新しいフォーマットのレースで、クラス別走行や予選決勝の時間帯の差などを経験し、様々な面での発見と課題の多いレースだったと感じています。

GT500 については、レース 1 途中での雨による環境の変化やレース 2 の予選決勝の時間帯差による路気温の変化に対応できる性能のレンジが、まだまだ充分ではないことを認識し今後の課題だと思っています。

GT300 については様々なチームがありタイヤ選択もいろいろと分かれていましたが、比較的ソフトなタイヤを選択した 5 号車の追い上げの様子は、これも今後のデータとして活きると思います。